今日は今年度を締めくくる最後の終業式となりました。
皆さんは今年度を振り返り、どのように自己評価しますか。１年間で目標を達成し、さらに自らの可能性を信じ挑戦している人、途中で目標を修正し直して努力を続けている人、どこかで歯車が回らなくなり意欲が下がってしまった人など様々でしょうが、それぞれがこの１年を確実に振り返り、新しい学年を迎えるにあたり、改めて自分の将来や目標を考える機会にしてほしいと思います。

さて、３学期の始業式にて「飛べなくなるノミ」という話をしました。ノミは自分の体長の 100 倍から 150 倍の跳躍力があり、2mm～4mm のノミが 30cm 以上ジャンプできる力を持っています。しかし、高さ 10cm や 15cm の瓶にいれて蓋をするとノミはこれまでどおり飛び跳ねると蓋にぶつかることを学習し、それを繰り返しているうちに蓋がなくなってもノミは瓶の高さ以上には飛ぶことができなくなるお話をいました。
そして、これはノミが自分の限界を作ってしまっているからだ、とも話しました。

今日はそれとよく似た逸話で「サーカスの象」というお話をします。
このお話に出てくるサーカスの象は、子供の頃、鎖で杭につながれて毎日を過ごしました。その時はまだ小さかったのでたいした力もなく、杭を引き抜くことができませんでした。しかし、象は大きくなってからも、その思い込みにとらわれ続けます。
ある日調教師はそのことに気づき、鎖のかわりにロープを使って象をちっぽけな杭につなぎとめます。この時大きくなった象にとって、ちっぽけな杭を引き抜くくらいたやすいはずです。しかし、象は「自分にはたいした力がない」と思い込んでいますから、何もせずにじっとしているというお話です。
この「サーカスの象」という話は、アレクサンダー・ロックハートが書いた「自分を磨く方法」という本に掲載されているお話です。
皆さんもこの「サーカスの象」のようになっていませんか？「自分にはたいした力がない」と思い込んでいませんか？

勉強でも，スポーツでも自分にはできないと思ってしまうこともあるかもしれませんが挑戦し続ければ限界を突破できることもあるのです。「昨日までできなかったからと言って，今日できないとは限らない」のです。自分でできないと決めるのではなく，できるかもしれない、と思って挑戦し続けてください。
サーカスの象が巨木を引き抜く能力を持っているように、皆さんにも非凡な能力があるかもしれません。新しいスタートを迎えるにあたり，もう一度目標を定めてみましょう。

令和６年３月１５日
校長　服部　有晋